

平成 30 年 1 月 13 日

少女二段補受験作文 「空手道について」

琉球少林流空手道 月心会  
西東京本部 浜田山支部  
大井花奈恵

わたしは 4 歳のときから月心会で空手をなっています。  
空手を始めたときのわたしのゆめは初段をとって黒おびをつけることでした。  
去年、2020 年の東京オリンピックから空手が正式種目になったのでいまは、  
オリンピックに出られるような選手になれたらいいな、と思っています。

そのためにはもっともっと練習をしなければいけないと思います。  
棒術も大好きです。「トクミネの棍」と「周氏の棍」の両方がちゃんと演武で  
できるように、練習をつづけていきたいと思っています。

自分の空手の練習だけでなく、ほかの人に教えることも大切だとも思います。  
大人の色おびの練習生の人たちに教えることはとてもむずかしくて、説明する  
言葉がちゃんと出てきません。でも教えることでわたしももっとその型の意味  
とかがわかるようになるので、お父さんにいろいろ聞きながら自分なりにちゃ  
んと教えることができるようにがんばっていこうと思っています。

空手道訓のなかの「空手はおのれを見つめ、おのれをただし、おのれをみがく  
ものである」という言葉がすきです。わたしの心や体を強くしてくれる空手を  
これからもつづけていきたいと思っています。